

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	幼児教育にも力を入れる保育理念に基づく運営がなされている
	内容	園が属する法人では、「かしこいあたま・やさしいこころ・じょうぶなからだ」という「知・情・体」の三位一体の乳幼児教育を保育理念としており、同園でも幼児教育に力を入れている。子どもの年齢に応じた様々な言葉かけやイロハがるたなど日本伝統の遊びを取り入れたり、廊下のぞうきんかけなどの運動、音楽に合わせたリズム運動、楽器や合唱、絵画や制作などの表現活動も行なわれている。
2	タイトル	保護者との密接なコミュニケーションがとれている
	内容	朝夕の登降園の際には担当保育士が玄関に立ち、子ども・保護者と挨拶を交わすともに、積極的な話しかけを行なっている。これによって、連絡帳等には書かれていないことも保護者から口頭で連絡を受けることができ、毎日の保育に生かすことができている。保育参観は年に3回実施し、クラス懇談会や個人面談を実施することによって、保護者からの相談に柔軟に対応できるように配慮している。
3	タイトル	子どもの発達状況に応じた緻密な指導計画が立てられている
	内容	指導計画は、保育課程に基づいて、年間計画・月案・週日案など決められた様式で作成されている。指導計画は、1期からIV期に分けて立てられ、0歳から2歳は個別計画で各項目を記載し、3歳児以上はクラス単位で各項目を記載している。職員は、子ども一人ひとりの発達状況を、児童票、個人記録、健康記録、日誌などに記録するとともに、課題によっては、各クラス、全体の職員会議で話し合い、見直しを行なっている。これらの評価反省は、来年度の指導計画を立てるときに役立てるようなしくみができている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	本部と連携した職員のキャリアプランの策定と積極的な人材採用が期待される
	内容	これまでも園では、求めている職員像を明確にし、園長を中心に必要とする人材の採用に向けた活動を行ってきた。また、職員の自己評価と園長との面接に基づき適切な人材配置に努めてきた。他方で、職員および保護者のアンケートにおいては、職員の確保と職員の異動に関する不安なども指摘されている。今後はさらに、本部と連携し、職員の経歴を活かしたキャリアプランとそれに応じた処遇をより一層明確にすることで、職員の安定とより積極的な採用活動が期待される。
2	タイトル	職員の能力向上に向けたより一層の研修の充実が期待される
	内容	本園では、職員はこれまでも年度ごとの自己評価を行ない、月ごとの研修参加目標をたてるしくみが作られていた。園長も、職員面談によって本人の希望を把握し、職員がまんべんなく研修を受けることができるように配慮してきた。しかし、現実には、職員ごとに研修参加にばらつきがみられ、職員の職務能力にも差がみられる。今後は、さらに職員の一人ひとりの職務との関連で能力向上に向けた研修をすすめるとともに、職員間のスキル向上を目指した園内研修の増加が期待される。
3	タイトル	保育の専門性を生かした支援、地域の関係機関との協力、高齢者との交流が期待される
	内容	これまでも地域の子育て中の親子を対象に、行政の支援のもと「マイ保育園ひろば」を開設してきた。その際に、保育の専門性を生かして、家庭での教育、保育に役立つ情報の提供あるいは保育相談にも応じる体制を整えてきた。ただし、必ずしも参加者は多くはなく今後の工夫が期待される。また、近隣の小中学校との情報の交換、学童クラブとの交流、他の保育園との協議なども行なわれてきた。今後は、さらに共同のイベント企画あるいは対象を広げた高齢者との交流など地域福祉にも役立つところみが期待される。